

国際ガラスデータベースに期待する



通商産業省生活産業局窯業建材課長 長田直俊

我が国の先端産業分野における急速な発展は、国際的にも多くの人々の注目するところとなっているが、その大きな要因の一つとして民間企業を中心とした旺盛な研究開発活動や、活発な情報交流活動等があげられる。

情報交流の重要性は、我が国においてもこれまで十分に認識されていたものの、実際の活動範囲は主として国内を対象としており、国境を越えたグローバルレベルの活動は、不十分な状態にあったといえよう。

例えば、データベースもその一つである。国際的に流通しているデータベースは数多いが、その主要なものは殆ど欧米、とくに米国の開発によるものである。

このような点から、これまで欧米諸国から、日本の「情報ただ乗り論」が喧伝されたこともあったが、その後の産・学・官関係機関の努力により実状はかなり改善されてきている。

例えば、ガラスに関係深いデータベースとして有名なケミカル・アブストラクツがある。これは米国の開発によるものであるが、最近では日本、ドイツ、イギリスなどの諸国が協力して、積極的に自国の文献・特許等の入力を行う協力体制が出来上がっている。

最近では、我が国独自の開発によるデータベースも次第に増加しており、数からいえば決して少なくない状況になって来ている。しかしながら、残念なことにそれらの殆どが日本語で作られているため、国際的に通用し難い面があるのが実状のように仄聞している。

このように、グローバルレベルの活動は、次第に活発になりつつあるものの、今後はさらに、我が国独自の開発による、しかも国際的に通用するようなデータベースが次々に作られる状態にならなければいけないであろう。

通商産業省としても、データベースの開発振興にはかねてより力を入れており、国際的に喜んで使っていただけるものが作られる基盤を整備してきたところである。

このような状況において、ニューガラスフォーラムは、1985年の設立以来、研究開発支援システムとしてのファクトデータベースの構築をその目的の一つに高く掲げ、1988年に古本前会長が、当時の和田窯業建材課長の勧めもあって、国際ガラスデータベースの実現を決意され、理事会社等の理解を求められるとともに、自ら海外主要ガラス企業の経営者に協力を求められるなどの努力をされたと伺っている。

1989年に実際のデータベースの作成作業が開始されてから、わずか2年という短期間の間に完成をみたのは、古本前会長、中島会長はじめ、理事会社その他のフォーラム会員会社、海外主要企業等の協力、さらに作花京大教授等の学会の方々の積極的なバックアップの賜と考えている。

情報量、検索機能等の点、文字通り国際的に通用する「国際ガラスデータベース」の構築に携われた関係者の皆様に対し、準備段階をも含め6年近くにわたるその粘り強い努力と緊密な協力体制に対し、深い敬意を表する次第である。

最後に、本データベースを継続的に改定増補され、グレードアップを図り、より充実したサービスを提供されることにより、国際社会に大きな貢献をされることを強く期待します。